暮らしとケア

「すごい！」のあと、何を伝える？

子どもの挑戦を見守る声かけ



「すごいね！」と喜ぶ。そのあと、何と言えばいいのでしょう。ほめ方の研究を手がかりに、子どもの挑戦を見守る言葉を考えます。

知ると、見方が変わる

01 何をほめられたかも、伝わる

小学5年生を対象にした実験では、課題の後に「頭のよさ」をほめられた子と、「努力」をほめられた子で、その後の難しい課題への反応に違いが見られました。能力をほめられた子は、失敗後に粘り強さや成績が下がりやすかったのです。［1］これは知的課題の研究ですが、結果だけでなく取り組み方にも目を向ける、というヒントになります。

02 「がんばったね」だけが正解ではない

一方、別の小学5年生の実験では、努力をほめる効果にも限界が見られました。努力してもつまずく場面では、ほめずに結果を伝える方がよい場合もありました。［2］決まった言葉を使えば意欲が育つ、とは言い切れません。悔しいときは、先に気持ちを聞く。その子の様子に合わせて言葉を選びたいですね。

知識を、暮らしの中へ

見えたことを、具体的な言葉に

家庭では、「投げる前に足の向きを変えたね」「もう一度やってみたんだね」と、実際に見えた工夫や挑戦を伝えてみるのも一案です。「どこが楽しかった？」と本人の感じ方を聞くのもよいでしょう。毎回評価しなくても、話を聞いて一緒に喜ぶ時間はつくれます。以下は研究の決まり文句ではなく、家庭向けの声かけ例です。

たとえば、こんなひと言

工夫に気づく	「さっきとやり方を変えたね」
挑戦を見つける	「もう一度、やってみたんだね」
本人に聞く	「どの場面が楽しかった？」

点数をつけるより、見えたことや本人の気持ちを言葉に。

今日からのヒント

1 まずは子どもの話を、最後まで聞いてみる。

2 結果に加えて、実際に見えた工夫をひとつ伝える。

3 悔しそうな日は、無理に前向きな言葉でまとめなくても大丈夫。

もっと知りたい方へ

出典と、読める範囲

各項目をタップすると、原文を開けます。

［1］Mueller & Dweck（1998）能力と努力への賞賛を比較した研究

小学5年生を対象とした6つの実験。知的課題での意欲や失敗後の反応を比較。

［2］Xing ほか（2018）賞賛と失敗後の反応

小学5年生103人の実験。能力・努力への賞賛と、賞賛を含まないフィードバックを比較。

この本で伝えたい範囲

紹介した研究は学習課題での実験です。同じ声かけが、運動場面やすべての子どもに同じ効果をもたらすと示したものではありません。

図解は理解のための整理です。表紙はイメージです。